

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 29 年度
ゲノム病理標準化センター
第 12 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 大阪大学大学院医学系研究科附属
最先端医療イノベーションセンター ホール

平成 29（2017）年 10 月

第 12 回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「平成 29 年度 第 12 回ゲノム病理標準化センター講習会」を 2017 年 10 月 14 日（土）、大阪大学大学院医学系研究科附属 最先端医療イノベーションセンター ホールにて開催した。

本年度 2 度目の地方開催，大阪開催としても 2 度目の講習会の参加者は 92 名（アンケート未提出者 2 名）、内訳は病理医が 40 名，臨床検査技師（病理）が 36 名，臨床医が 7 名，その他が 9 名（臨床検査技師 3 名、大学教員／研究者，研究員，薬剤師，メーカー）であった。

はじめに大阪大学医学部 病理学分野 教授 森井英一氏より今年度初の関西開催に関しての挨拶があった。続いて主催者である東京大学医学部附属病院 病院長 斎藤延人氏および日本病理学会 理事長 深山正久氏の代理として，東京大学医学部附属病院 病理部・病理診断科 副部長 佐々木毅が深山正久氏の挨拶を代読した。

講義では，「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として，東京大学医科学研究所 国際先端医療社会連携研究部門 特任准教授 湯地晃一郎氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで，九州がんセンター 統括診療部病理診断科 医長 田口健一氏より「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演を行った。

次いで日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して，「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して，北海道がんセンター がんゲノムセンター長 西原広史氏よりご講演いただいた。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであったが，要望としては来年度以降も引き続き講習会開催の要望があり，特に関西開催に関しても，来年度以降もぜひ継続して実施してほしいという要望が会場内で多く聞かれ，喫緊の検討課題と考えられた。

アンケート集計結果は各講師にもフィードバックしているが，その意見および実証実験の新たな知見等をもとに毎回講演内容がブラッシュア

ップされており，当初指導されていた「テキストの固定」は，実質的に不可能であり，今後も都度のハンドアウトの印刷は必要であると考えられる．

なお、講習会の終了にあたり，聴講生には修了証書が配布された．また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニングが受講できるように専用の ID，パスワードを配布し受講を促した．

(文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅)